



# YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

「人類に奉仕するロータリー」 Rotary Serving Humanity

2016-17年度 RI会長／ジョン・ジャーム RI.D2590ガバナー／高良 明 横浜旭RC会長／青木 邦弘

国際ロータリー第2590地区

## 横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-2後藤ビル2F／〒241-0821

TEL.045-365-3273／FAX.045-365-3132

E-mail:asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 横浜市旭区二俣川1-45-30工藤ビル  
(株岡田屋3階会議室)

例会日 毎週水曜日／12時30分～1時30分



旭区民まつりにて宮城復興米販売



第5回チャリティーコンサート



被災地の子ども達にクリスマスプレゼント

2016年9月28日 第2261回例会 VOL. 48 No. 12

- 司 会 副SAA 内田 敏
- 開会点鐘 会 長 青木 邦弘
- 斉 唱 それでこそロータリー
- 出席報告

会員数	31名	本日の出席数	26名
本日の出席率	96.3%	修正出席率	96.3%

### ■本日の欠席者

後藤

### ■他クラブ出席者

青木、北澤、五十嵐（地区）

### ■ゲスト

本田 和彦様

（横浜市水道局推進事業部公民連携推進課長）

上田 嘉彦様

（横浜市水道局推進事業部公民連携推進係長）

### ■会長報告

#### ○地区関係

1) 10/5のチャリティーディナーショーにつきまして、ぜひとももっと多くの方々の参加をお願いします。28日が最終締め切りです。

2) 2017-18年度青少年交換学生につきまして、来日学生に対する全責任はホストクラブにあるが、ホストファミリーの確保について、スポンサークラブも半年間の責任を持つものとなりました。

3) 熊本支援につきまして、新横浜RCから支援に協力する旨、久米ガバナー補佐から連絡

がありました。

4) 緑RCからフィリピン支援として古着を送っていますので、ご協力の依頼がありました。古着は2-3年着たあとの夏物衣料をお願いします。次週お持ちいただけたら、まとめて送りたいと思います。

#### ○クラブ関係

2016-17年度規定審議会を受けてアンケートをとり、結果をまとめて、理事会に計り会員皆様により決定したいと思います。その他については、意見を必ず記入してください。

#### 1) 出席について規定を変更する裁量

- ・85年のルール

ロータリークラブでの所属年数と会員年齢の合計が、85年以上で20年以上の会員歴がある場合出席規定の免除が受けれます。

#### ①もったきつくる

#### ②もっと緩和する

#### ③現状でよい

#### ④その他

#### 2) 入会金について

入会金を払わなくても入会を認める事ができます。今後クラブの裁量で入会金を徴収することもできます。

#### ①入会金を廃止する

#### ②入会金の名前を変えて増額する

#### ③現状でよい

#### ④その他

### 3) クラブ例会について

例会のスケジュールを変更する裁量

少なくとも月2回例会を行う限り、例会日、時間を変更することもできます。

- ①例会を月3回とする
- ②例会を月4回とする
- ③現状でよい
- ④その他

### 4) その他

自由にご記入下さい。

#### ■災害対策委員会 増田嘉一郎

熊本復興支援に瀬谷ロータリークラブに続いて岩沼ロータリークラブから、40,426円のご寄付を頂きました。

#### ■会員増強キャンペーン報告

関口 友宏

7～9月を期間と定め、佐藤利明・安藤公一・鈴木・関口の4班体制でキャンペーンをおこなってまいりました。会員増強は短期間で成果を求めるものではありませんが、年度初めの動機付けが目的です。引き続きご協力お願い致します。

#### ○実績と情報

入会者 2名 兵藤会員 大川会員

入会予定者 1名 岡田屋社長来年4月以降

入会候補者

男性7名

医療機器・読売新聞販売・ゴルフ練習場

特別養護老人ホーム・不動産・喫茶店

二俣川再開発理事長

女性3名

元クラブ会員2名、元JC会員1名

#### ■不動産フェアのお知らせ 佐藤 真吾

○チャリティー寄席のご案内

日時 10月6日(木)午後6時～

場所 横浜市民文化会館 関内ホール

入場料 900円

出演者 林家正蔵、三遊亭圓丸、やなぎ南玉

主催 神奈川県宅地建物取引協会

後援 国土交通省 消費者庁

神奈川県横浜市環境創造局

\*お問い合わせ 佐藤真吾会員まで

#### ■5分間情報 市川 慎二

○経済と地域社会の発展について

出席者 増田、五十嵐二宮(麻)、市川

日時 9月21日(水)午後1時30分～2時

場所 例会場

1) 経済と地域社会の発展が月間テーマとされている意義

経済と地域社会の発展は、ロータリーの6つの重点分野の一つになっており、失業・不完全雇用・ビジネスの機会・職業研修・社会保障の欠如は貧困を引き起こす深刻な問題です。

人々が健康で安全に生活を送るための手段のひとつとなるのが、働くことであり、貧困を減らすには雇用機会の創出と収入源の確保が必要とされます。特に、女性、若者、貧困層の人々の社会におけるエンパワーメントといった地位向上は持続可能な経済的、社会的発展のカギとなる要素です。

世界銀行によると1日に1ドル25セント未満で生活する貧困者数は、1990年に192万人でしたが、2011年には100万人にまで減少しています。貧困を減らす取り組みでは着実な成果が挙げられており、2015年にはミレニアム開発目標の一部が達成されています。しかし持続可能な開発目標では現在も世界に以下のような切迫したニーズがあると指摘されています。

・1人当たりの農業収入は1%増えるごとに、極度の貧困者数が0.6～1.8%減る

・マイクロクレジット(小口融資)を利用できれば、収入や消費の変動に左右されにくくなる。

・ナイジェリアでは教育や研修などの人材投資を1%増やすことで、貧困を66%以上減らすことができる。

・単純労働で働く女性は専門性のある仕事に就くためのスキルを備えていない。シンガポール、台湾、マレーシアなどの国に見られるように、職業訓練の充実はその国の付加価値生産を高めるための必須条件である。

・2013年の失業人口は約2億200万人であり、そのうち7450万人は15～24歳の若者だった。

・都市部以外に住む貧困者の70%の主な収入源と仕事は農業である

・雇用における男女格差は根強く、2012年の就業率における男女差は24.8ポイントである。その為、世界各地のロータリークラブは、

経済と地域社会を目指す活動に取り組んでいます。

2) 当クラブとして取り組めるプログラム、プロジェクト企画の提案

○地域社会のニーズに応える

経済と地域社会発展にニーズがある場合。その多くは以下のいずれかのカテゴリーに当てはまるはずです。

- ・若者の失業率を下げる
- ・起業の妨げとなる要因をなくす
- ・農業、畜産業の機会を妨げる要因をなくす
- ・貧困問題に取り組むためのリソース

若者の失業率を下げるというカテゴリーでは、当クラブが行ってきた職業講話などがあてはまり、この地域で本当に役立つスキルを育むことになっていたと思います。

旭区でも若者による引きこもりやニート解消に力を注いでいます。雇用機会の創出を目的にするのであれば、以前行っていたように、積極的にインターンシップ、見習といったメンタリング（人材育成）を、各会員の事業所にて行うのもよいのではないかと。

又、NPOなどに声を掛け、卓話をしていただき、引きこもりやニートの実情、困っていること、力になれることがないかなど、検討してみる。

活動できる場所を探し、各ロータリアンの特技や趣味を習い事などが出来ない子ども達に教えるのも良いのではないかと。近年では高齢者の方で、物事を行う能力や技能、資格、体力があるのに、それを使う場所が見つからない方が多いと思う。そういった方の居場所のようなものを作れないだろうか。例えば遊休地などを利用して農業などの皆が楽しめる活動を試みる。身体を動かし楽しめる事が老後の健康にも繋がり、健康が広い意味での経済の発展に繋がれば良いと思う。

■ニコニコBOX（会員敬称略）

本田和彦様・上田良彦様（横浜市水道局）／本日の卓話よろしくお願ひ申し上げます。

青木 邦弘／横浜市水道局より本田様、上田様がお越しになりました。よろしくお願ひします。

北澤 正浩／横浜市水道局事業推進部公民連携推進課本田課長様、上田係長様、ようこそ

おいで下さいました。卓話よろしくお願ひ致します。

岡田清七・佐藤利明・佐藤真吾／横浜市水道局公民連携推進課本田様、上田様、本日はお忙しい中、卓話をお引受けくださり有り難うございました。よろしくお願ひ致します。

内田 敏／水道局の本日の卓話よろしくお願ひいたします。

太田 勝典／本田様、上田様、卓話御苦労様です。

五十嵐 正／①妻の誕生日に素敵なお花を有難うございました。②兵藤さん、ご本拝読させていただきます。

滝澤 亮／横浜市水道局本田様、本日の卓話よろしくお願ひいたします。

齋藤 善孝／本田様、本日はお忙しい中卓話をお引受け頂き有難うございます。よろしくお願ひします。

市川 慎二／横浜市水道局本田様、上田様、お忙しい中有難うございます。卓話宜しくお願ひ致します。

大川 伸一／本田様、お暑い中有難うございます。よろしくお願ひいたします。

吉原 則光／水道局の本田課長様、残暑なお厳しいところ、有り難うございます。今日の卓話大変たのしみしております。よろしくお願ひします。水道道は私の子供時代は通学路、遊び場で大変なつかしい所です。

本山 雄三／本田様、ようこそお越し下さいました。本日はよろしくお願ひします。

安藤 公一／横浜市水道局の本田課長様、上田係長様、本日はお忙しい中ありがとうございます。卓話宜しくお願ひ致します。

■卓話「横浜市の水源について」

○卓話者紹介

佐藤 真吾

本多和彦（ほんだかずひこ）

昭和62年横浜市入庁。保土ヶ谷区区政推進課、経済局商業課勤務を経て、係長昇進、国土庁防災局へ出向。港南区区政推進課企画調整係長、福祉局高齢施設整備課担当係長を経て、課長昇任。市民局協働推進課長、総務局しごと改革推進課長等を経て、平成27年度4月、水道局出向。横浜の水プロモーション課長、機構改革により、28年4月から公民連携推進課長（現職）

## ■水源林保全の取組について 本田 和彦様

### 1) はじめに

横浜は近代水道発祥の地

○明治15(1882)年には、横浜の人口は77,000人に達し、飲料水の不足は深刻、同年コレラを主とする伝染病患者は1,400人に及び、公衆衛生上からも国際港としての給水の必要性からも水道施設の整備が急務となる。

○明治18年(1885)年、イギリス人のヘンリー・スペンサー・パーマー氏を工師長に招いて水道工事に着手し、明治20(1887)年10月17日に日本最初の近代水道として横浜水道が給水を開始しました。その後、函館：明治22(1889)年、長崎：明治24(1891)年、大阪：明治28(1895)年、東京：明治31(1898)年、広島：明治32(1899)年、神戸：明治33(1900)年と各都市が続きました。

○創設水道は、相模川の上流、道志川との合流点付近の三井村（津久井郡津久井町を経て現在は相模原市緑区）三井用水取水所を設け、43.91kmに及ぶ導水路線を経由し、野毛山浄水場で緩速ろ過を行い、圧力管にて給水しました。

※近代水道とは…鉄管を使用し、圧力による送水すること。

### 2) 横浜市水道局の取組

横浜市水道局は、今年3月に策定した、「横浜水道長期ビジョン・中期経営計画※」に基づいて事業を実施しています。

○水道料金収入はH28予算688億円、給水戸数は増加しているものの、トイレやその他の節水機器等の普及により一戸あたりの使用水量は減少しています。

○施設の老朽化対策や耐震化のための事業費をH28予算で361億円確保しています。その代表的な事業としては、高度経済成長期（昭和40年代）に布設した水道管、約2,400kmの更新時期を迎え、年間110kmのペースで老朽管を地震に強い耐震管に交換しています。ちなみに、横浜市内の水道管の総延長距離は9,100kmにもおよび、横浜からロサンゼルスに距離に該当します。



※横浜市水道局ホームページに掲載しています。

### 3) 水源林保全の取組

○水道局では道志川の水質を守るために広大な水源林を道志村に保有し、計画的に維持・管理しています。また、道志村の民有林の中には、人手不足等により手入れが行き届かず、水源かん養林機能の低下が懸念される森林があります。そのような民有林に対して、「横浜市水のふるさと道志の森基金」を財源として、市民ボランティアによる間伐を行っています。

その他、後ほど説明させていただきますが、水源エコプロジェクト（ウィコップ）を活用した水源林の保全活動や、はまっ子どうし The Waterによる水源林保全活動として、売上金の一部を道志村の民有林の整備活動支援に寄附しています。

### 4) 水源エコプロジェクト

W-eco・p（ウィコップ）

○企業や団体と協働し、水源保全の取り組みとして、事業の趣旨に賛同された企業・団体からいただいた寄付金を水道局所有の水源林整備に活用させていただいています。又、水源保全をテーマとしたイベントを協働して行うなどの広報活動を通じて、水源保全のPRや参加企業、団体のCSR活動を推進しています。○ウィコップ協定については、原則3年度3ヘクタール以上、横浜市水道局所有の水源林整備にかかる費用として、1ヘクタール当たり30万円のご寄付をいただく仕組みになります。

○横浜市水道局所有の道志村水源林

2,873ヘクタール

○横浜市と道志村の関係 友好・交流に関する協定締結（平成16年）

【参考】水源林保全について

《水源かん養林の働き》

水源かん養林とは、森林の保水能力を積極的に活用したもので、いわば形のない貯水池「緑のダム」なのです。水を貯え、水を浄化し、洪水を防ぐ働きがあります。

## ■次週の卓話

10/12(水) 蔡 金燕様

(1994-96年度米山奨学生)

週報担当 吉原 則光